令和７年度　野田市立あおい空指定管理者管理運営状況調書

担当課　障がい者支援課

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価	担当課評価	特記事項
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	サービスの向上（質の確保）のための方策	B	B	
危機管理体制	施設の安全管理についての対策	B	B	
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理に係る経費の収支見込について	B	B	
	②経費縮減のための取組	B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際して、地元業者へ配慮すること	地元住民の雇用及び地元業者への配慮	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	人員配置について	C	B	

総合所見

令和８年１月９日に障がい者支援課長補佐、係長及び施設担当者の４人で施設を訪問し、指定管理者と打合せを行った。

サービス向上のための取組については、毎月開催している保護者会及び年度末に実施している利用者への満足度調査で、相談及び要望等の有無を確認している。また、職員に向けて様々な研修を実施することで、障がいに対する知識を深めることや支援技術の向上に努めている。特に、淑徳大学教授による機能訓練研修においては、職員のみでなく保護者にも参加してもらうことで、施設と家庭の両方で利用者一人一人に合った支援ができるよう取り組んでいる。

令和５年 10 月に指定管理者が開所したグループホームには、あおい空利用者のうち６名が入居している。あおい空職員がグループホーム職員を兼務することにより、利用者の特性に合わせた一貫したサービス提供を行うと同時に、介護人材の不足をカバーしていることは評価できるが、あおい空でのサービスの質を低下させることはできないため、あおい空職員の負担は増している。利用者に対する生活支援員の配置は、令和７年度平均で利用者 1.40 人に対し１人であり、令和６年度の 1.45：１と比較すると職員の配置割合はわずかに改善しており、仕様書の水準である２：１も満たしている。また、不足している生活支援員を補うために非常勤の看護職員を１名増員することで、利用者へのサービスの質を落とさない

よう努めていることから、指定管理者自己評価Ｃに対して担当課評価をＢとした。
　指定管理に係る経費の収支見込みについては、延べ利用回数が増えたことから利用料金収入が見込みよりも増えている。支出については、非常勤の看護職員を１名増員したものの、常勤の生活支援員が 2.7 人不足していることから人件費支出が減少している。
　地元住民の雇用及び地元業者への配慮については、職員 31 人中 24 人が野田市在住者となっている。
　介護人材の不足により計画どおりの人員配置はできていないものの、職員募集のホームページ掲載やポスター掲示などに力を入れていること、また、安定した運営がされていることから、全ての項目について適正に管理運営がされていると判断したため、市としての評価をＢとした。